

はじめに

少子化・人口減少、グローバル化の進展に加え、国際秩序の揺らぎ、さらに生成AIを始めとした高度デジタル技術の導入など、社会は急速に変化し、子供たちが生きる未来は、いっそう複雑かつ予測困難な時代となることが予想されます。しかし、このような時代だからこそ、子供たちには変化を「前向き」に、そして「しなやか」に受け止め、人ならではの感性を働かせて、日々の生活や人生をより豊かにしたり、未来の社会の姿を構想し、実現したりしていくことが期待されています。

こうした中、我が国は、教育改革に取り組み、令和2年度からは、改訂された学習指導要領の実施が始まり、令和3年には、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～の答申、さらに、令和4年には、「公立の小学校等の校長及び教育としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正」「研修履歴を活用した対話に基づくガイドライン（令和5年一部修正）」の策定を踏まえ、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の答申が中央教育審議会から示され、令和5年度から、「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」により、教員の研修履歴の記録の作成と活用に関する指導助言等の仕組みが施行されました。一方、GIGAスクール構想は、新型コロナウイルス感染拡大を機に大きく進み、子供たちの学びの環境も変化しています。

これらの令和3年答申と、令和4年答申は、いずれも学習指導要領を着実に実施していくために必要な指導の具体化とそれを担う教師の学びの在り方を示すものであります。ぜひ、これらの答申等を踏まえつつ、ICT機器に加え、今年度から始まりました研修履歴の活用も、各校の推進エンジンとして御活用いただき、学校を支える全ての関係者が、子供たちのロールモデルとなるよう「学び合い、高め合える」学校文化を築き上げていただくことを切に願っております。

愛知県総合教育センターでは、教育に関する専門的・技術的事項の研究、教育関係職員への研修、教育相談、教育に関する情報収集・提供及び農業教育に関する生徒実習指導などを、学校や教育委員会と連携しながら推進しております。特に、今年度の当センター研究発表会では、「子供たちの可能性を引き出す『令和の日本型学校教育』の学びの在り方」というテーマを掲げ、「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築に関する研究（COREハイスクール・ネットワーク構想）」「県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（商業））」「県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（家庭、看護、福祉））」「新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究」「県立高等学校教育課程課題研究（地理歴史、公民）」「情報教育の充実に関する研究（ICT授業活用に関する研究）」についての研究成果を発表いたしました。

本研究紀要には、令和5年度教育研究調査事業からセンター発表会において発表した研究等の成果を収録しております。本研究紀要が、学校での教育研究、教育実践、研修等の一助となれば幸甚です。本研究紀要は、当センターのウェブページ及び、図書資料室にて閲覧できます。ウェブページには、過去の研究成果や各教科の研究成果等を教材コンテンツとして提供しておりますので、併せて御活用ください。

最後になりましたが、この研究紀要を刊行するに当たり、教育研究調査事業に多大なる御協力をいただきました関係者の方々に心から感謝の意を表しますとともに、皆様の忌憚のない御意見、御助言を当センターにお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和6年3月

愛知県総合教育センター
所長 山脇正成